

■ 近代日本画の先駆者

# 平福 穂庵

ひらふく すいあん

出身地 仙北市（旧角館町）

1844年（弘化元年）～1890年（明治23年）

中国・日本の伝統的な画法を加味した作品と、現実

写生に基づく自由で独特の筆勢<sup>ひっせい</sup>を見せる作品があ

る。特に対象に迫る写実表現は、新しい日本画の

姿<sup>すがた</sup>を示した。代表作に「乞食図」<sup>こじきず</sup>「乳虎」<sup>にゅうこ</sup>などが

ある。平福百穂の父。



## 年譜

- 1844年 仙北市（旧角館町）<sup>かくのだて</sup>に生まれる。  
通称・順蔵<sup>じゆんぞう</sup>、本名・芸<sup>うん</sup>。
- 1851年 武村文海<sup>たけむらぶんかい</sup>に絵を習う。
- 1861年 京都に遊学。この頃より「穂庵」<sup>すいあん</sup>の号をな<sup>ころ</sup>のる。
- 1872年 北海道でアイヌの生活<sup>えが</sup>を描く。
- 1880年 第3回秋田勸業博覧会<sup>かんぎょうはくらんかい</sup>に「乞食図」<sup>こじきず</sup>を出品、  
1等賞を受賞。
- 1884年 パリで開催された龍池会主催第2回日本美術縦覧会<sup>じゅうらんかい</sup>に  
「鷺」<sup>わし</sup>を出品。
- 1890年 第3回内国勸業博覧会<sup>かんぎょうはくらんかい</sup>で「乳虎」<sup>にゅうこ</sup>が妙技<sup>みょうぎ</sup>2等賞を受賞。  
秋田市<sup>ほつ</sup>で没。46歳<sup>さい</sup>。